BBS GROUP NEWS

VOL.63 JULY 2022

お客様とBBSをつなぐコミュニケーションツール

CONTENTS

Page 2 ── 特別対談
EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉 正美 × 株式会社ビジネスブレイン太田昭和 代表取締役社長 小宮 一浩

Page 4 ── 事例紹介 ～JFEシビル株式会社様～

Page 6 ── サステナビリティ
・BBSスマイル農園を開設しました
・BBSと親子で学ぼう ～スマートフォンは何歳から持つの？～

Page 7 ── 第4回｜BBS 絵画コンクール 受賞作品発表

Back cover ─ NEWS

特別対談

株式会社ビジネスブレイン太田昭和
代表取締役社長
小宮 一浩

EY新日本有限責任監査法人
理事長
片倉 正美

多様な人財の育成が イノベーションを生み 日本企業を新たな成長へ導く

EY新日本有限責任監査法人で理事長を務める片倉正美氏をお招きし、日本企業の成長や人財育成をテーマに当社代表取締役社長の小宮が意見を交わしました。今号では、その内容をダイジェストで紹介します。

＊BBSでは人財と表現しています。

対談内容のフルバージョンをWebサイトに掲載しています

すでにコロナ前の状況に戻った海外企業 日本企業はいち早く差を埋めることが急務

小宮：世界情勢は不安定な状況が続いています。こうしたなかで日本企業の成長には、どのような取り組みが必要だとお考えでしょうか。

片倉：新型コロナウイルス感染症の拡大にともなう出入国制限措置が緩和され、海外出張を再開して感じるのは、海外はすでにコロナ前の状況に戻っているということです。日本企業は、今この差を埋めないとグローバルポジションに影響すると危惧しています。そこで必要になるのは、激変した世の中に対応して、会社を抜本的に変えることです。そのためにはイノベーションが必要であり、イノベーションにはテクノロジーが重要な役割を果たします。

小宮：当社グループは、中期経営計画「BBS 2023」で「Make Hybrid Innovations」をスローガンに掲げて、お客様のイノベーションにDXで貢献することをめざしています。

片倉：DXに取り組む企業に共通しているのは「このままではいけない」という危機感です。この危機感を打破する方法は、多様な人材のディスカッションから新しい気付きを導き出すことです。

小宮：シニア層の知見や経験に基づくアドバイスも、イノベーションを後押ししてくれます。そこで当社では、1年単位で定年退職者の雇用を延長して、事業に貢献してもらう制度を整えています。

片倉：すばらしい取り組みですね。シニアの知見を従来どおりの間柄で後輩たちに継承して、成長を支援してもらえるのは、とても有効だと思います。若い世代の斬新なアイデアとシニアの経験やビジネスセンスの融合は、イノベーションにつながります。

片倉 正美

1991年の入所後、多くの日本企業の監査に従事。テクノロジーセクターに対する深いナレッジを持つ。2005年から2年間、経済産業省で日本のIT政策の立案に携わった後、政府の委員を歴任。2019年より現職。

女性や若手など多様な人財の成長・育成に必要な環境や制度とは

小宮：当社では2021年度に女性の社外取締役が1名就任しました。女性の活躍推進は今、多くの企業が重視しています。

片倉：大きな前進ですね。女性の活躍でもう一つ期待しているのは、内部昇格で役員に登用される女性が増えることです。そのために必要なのは経験です。例えば役員の補佐役に就けて、多くのことを学ばせる。経験を通じて実績を上げると、本人は自信を持ち、周囲も評価します。

小宮：経験は、確かに重要ですね。

片倉：私は経営層の方に、年齢や年功にかかわらず女性や若手を抜擢し、「チャレンジの機会を与える」ことを提案したいです。直属の評価者だけでは無意識のうちに女性にバイアスがかかった評価になりがちで、昇格や抜擢の候補に挙がらないことがあるからです。

小宮：若手人財の育成については、いかがでしょうか。

片倉：当法人では、男女を問わずライフイベントに合わせてストレスなく働ける環境づくりに注力しています。その一つが、働く時間と場所を個人の裁量で選べる制度です。子どもの急な発熱など出勤後にプライベートで時間を使いたい時に仕事を中断できる「中抜け制度」などが一例です。また、コロナ禍でメンバー間のつながりが希薄になり、不安を感じる若手もいましたので、上位の管理職クラスが親役になって10名前後でファミリー（小集団）をつくりました。メンバーの日々の悩みや相談など、これまでよりきめ細かく対応してくれると好評です。

小宮：当社では、組織によっては若手の先輩社員が兄弟姉妹のような関係性で後輩の成長をサポートするブラザー制度を導入しています。若い世代には、人とつながる環境が大切ですね。

「心理的安全性」が保たれた環境で互いを尊重しながらチームの目標を共有する

小宮：多くの企業がチームで業務を進めている現在、個々の思いとチームの目標を両立させることは簡単ではありませんね。

片倉：おっしゃるとおりです。ただし、メンバー全員がチーム目標を理解するとともに、お互いを尊重するコンセンサスが構築されていれば、十分に機能します。近年、「心理的安全性」ということがよくいわれますが、私は、誰もが自分の考えを安心して発言できるよう、「誰の意見でも耳を傾けて受け止め建設的な提案を行う環境をつくろう」と話しています。それでも、業務負荷がかかり過ぎると機能不全を起こしますので、現場のがんばりに頼るのではなく、本部からのサポートも必要です。

小宮：近年は、多くの企業で人財確保自体も大きな課題となっています。

片倉：おっしゃるとおりです。当法人でも、人をサポートするため、AIやRPAなどへの投資を加速して自働化を進めています。

小宮：一部ではツールの採用で人が不要になる、という意見もあります。

片倉：人材が中心であることに変わりはありません。変わったのは、ツールを利用する技術と結果を読み解く能力が必須になったこと。さらには、リスクの見極めやお客様との調整など、人ならではの価値がより重視されるようになったことです。人材育成プログラムも時代に合うよう内容を変え、活発に行っています。

小宮：お話を振り返ると、環境が変化していくなかで、日本および日本企業が成長していくためには、世代や年齢に関わりなく社員の個性を尊重し、人財を育成していくことが何よりも大切だということですね。貴重なお話をありがとうございました。

JFE シビル株式会社 様

あるべき業務の型や RPA テンプレートを提供する ロケットスタートチャレンジの活用により、短期間で DX を実現

導入効果

2024 年から始まる残業時間 45 時間以下を見据えて

RPA、各種デジタルツールの活用で生産性を向上

重複する業務や人財、業務の属人化を解消

業務を標準化し、運用体制をスリム化

ムダ工数を削った結果、創出できた時間を

より付加価値の高い仕事にシフト

お客様プロフィール

JFE シビル株式会社 様

設立 1972 年 1 月 11 日
公式サイト https://www.jfe-civil.com/

JFE グループの総合建設会社。鉄鋼関連分野で培った技術力を活かし、物流建築、建築、社会基盤、鉄鋼土建、海外建設の 5 つの事業を展開しています。

BBS は RPA を活用したコンサルティング・運用サービスを提供。同社がめざす業務効率化のための支援をしています。

JFE シビル株式会社様が導入した「ロケットスタートチャレンジ」とは

ロボットテンプレートを利用し 30 本のシナリオを 3 カ月で業務適用するプログラムです。業務改善のプロフェッショナルである BBS のコンサルタントがお客様の DX 推進をバックサポートします。

提供メニュー

働き方改革 / DX / 業務改革・BPR / システムコンサルティング / 製品

ダイジェストで読む「ロケットスタートチャレンジ」導入効果

残業時間の削減や業務標準化をめざし、RPA を導入 課題だった人財のスリム化が見えてきた

JFE シビル株式会社様では、2024 年 4 月から始まる建設業の残業上限規制への対応を見据え、残業時間を 45 時間以下にする必要性や、短期間で発生する大量の支払事務、部門間の作業重複や業務の属人化といった課題を抱えていました。

これらを解決するために、生産性向上による業務改善と RPA の活用が必要であると考え、BBS の「ロケットスタートチャレンジ」を導入。テンプレートを利用し、勤怠管理システムの問題点などの洗い出し段階からコンサルタントが伴走した結果、社内に RPA の開発経験がなくとも、短期間での開発・導入を行うことができました。今後も BBS のさまざまな支援によって、さらなる業務効率化を実現できると確信しています。

詳細はWebサイトで
ご覧いただけます。

BEFORE

生産性向上と残業時間削減　抱えていた３つの課題

支払い事務が短期間に集中

短期間に大量の支払い事務が発生してしまうため、メンバーが作業に忙殺され、長時間労働の原因になってしまっていた。

部門ごとに重複する人財

建設、設計など部門ごとに同じ業務を担当する人財が重複し、業務効率が悪いだけでなく人員のスリム化を図るうえでもネックになっていた。

業務が標準化されていない

短納期の入力作業では、時間内に間に合わせねばならないプレッシャーから、入力ミスを誘発しやすい労働環境になっていた。

AFTER

ロケットスタートチャレンジで、こう解決！

負担だった定型業務を RPA に置き換え効率化

- 人の手で何時間もかけていた処理が簡略化
- 複雑な資料作成も素早く準備できる
- 従来では採取できなかった情報も提供可能

担当作業がゼロになった人もいるなど業務効率化を実感

- 無駄な工数を削減し、残業時間削減
- 課題だった運用体制のスリム化へ

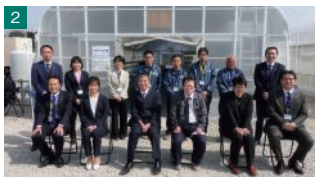
生産性が向上し空いた時間でプラスアルファの業務ができる

- より内容と精度が UP した有益な情報の提供が可能に
- 付加価値の高い仕事に人手を転換

BBS（ビービーエス）スマイル農園を開設しました

農業を通じて、誰もが活躍できる場

BBSグループでは、ダイバーシティ＆インクルージョンの推進の一環として、「BBSスマイル農園」を開設しました。BBSで働くすべての人財が、個々の能力を最大限に発揮できる象徴として、シルバー人財や障がいをもつ社員が中心になって農園運営を行い、BBSで働く喜びを全従業員で感じ合える場にしていきます。



開所式～第2期生入社式

1 晴天に恵まれた開所式。スタッフ一人ひとりがこれからの抱負を発表しました

2 3 第2期生の入社式。式の後、ビニールハウスを見学し、第1期生による野菜づくりの説明を熱心に聞いていました

収穫祭

開所から3カ月半、いよいよ初の収穫へ。小松菜やほうれん草、水菜、ラディッシュなど収穫したたくさんの新鮮な野菜は、本社で働く社員にも届けました。

野菜を受け取った社員からは「おいしそう」「食べるのが楽しみ」との声が聞こえてきました。これからも、農園が、おいしい野菜とともに、BBS社員や関係者の笑顔をたくさんつくってくれると期待しています。

BBSスマイル農園の活動は当社Facebookで紹介しています。

https://www.facebook.com/businessbrainshowaota/

BBS（ビービーエス）と親子で学ぼう

スマートフォン（スマホ）は何歳から持つの？

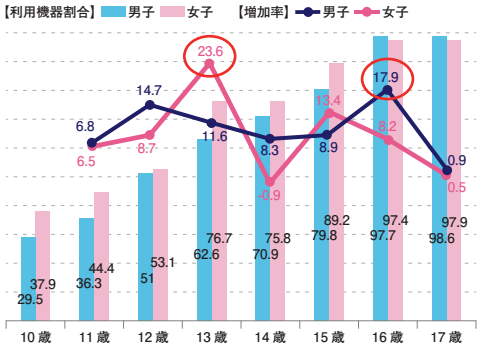
親としても子どもとしても気になるのが、スマホをいつから持つのか？というテーマではないでしょうか。

内閣府によるインターネット利用機器に関する調査で「スマートフォン」を見てみると、年を重ねるごとにスマホを利用している割合が増えていることがわかります。高校生ともなるとほとんどの人が専用のスマホを持っているようです。

もう一つ興味深いのは、女の子は12歳から13歳、つまり小学校から中学校に上がるタイミングで割合が最も増えています。一方で、男の子は15歳から16歳、つまり中学校から高校に上がるタイミングが一番多いということです。

何歳が正しいという答えはありませんので、まずはスマホをいつから持たせるか、持たせるとしたらルールはどうするかなど、お話をすることが大切ですね。

インターネットを利用している機器（スマートフォン）



「令和3年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」（内閣府）

第4回 BBS絵画コンクール 受賞作品発表！

テーマ　ぼく・わたしのすきなもの

子どもたちの想像力や表現力を育むことを目的に開催しているBBS絵画コンクール。応募作品はBBS社員をはじめ、小宮社長も選考に参加し、次の7点が受賞作品に決定しました。今回も全国からたくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞
川口 緋鞠さん（大阪府吹田市）
『言葉が話せるクジャク』

山崎 映見里さん
（神奈川県川崎市）
『愛猫チョビ』
優秀賞

多田 悠太さん
（兵庫県尼崎市）
『自然のオオクワガタ』
優秀賞

河畑 杏音さん
（滋賀県守山市）
『ことしはじめてのきゅうり』
佳作

佐藤 実礼さん
（埼玉県北足立郡）
『私の大好きな猫と、大好きな絵を描いている時間』
佳作

矢本 創大さん
（和歌山市）
『きらきら光るトオモロコシ』
佳作

髙橋 和紗さん
（青森県上北郡）
『フラワーホース』
佳作

受賞作品の詳細は、2022年8月にBBSのWebサイトで公開予定です。
Webサイト：https://www.bbs.co.jp/contest/library/

BBS GROUP NEWS

グループの新着情報をダイジェストでお送りいたします。 各ニュースの詳細は右のQRコードからWebサイトでご覧いただけます。

「DX認定事業者」の認定を取得

DX認定

BBSは経済産業省が定めるDX認定制度に基づき、「DX認定事業者」の認定を取得しました。「デジタルガバナンス・コード」の指針に沿った形で、セキュリティにも配慮し、DXを進めています。半歩先を行くDXならびに経営会計をお客様とともに推進し、広くは日本のDX、経営会計に貢献していきます。

「健康経営優良法人2022」に認定

BBSは経済産業省と日本健康会議が共同で実施する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人2022（大規模法人部門）」の認定を取得しました。2019年より、社員を最重要の財産として「人財」と定義し、社員が心身ともに健康であることが企業の成長・発展へつながると考える「健康経営宣言」を行っています。

新子会社「株式会社BSC」のご紹介

2022年4月、株式会社BSCがBBSグループに参画しました。BSCは、1989年に創業、大阪に本社を置き、100名を超えるシステムエンジニアが在籍しています。BBSの主軸である「経営会計」の中心を担う基幹業務システムの設計や構築を事業として行い、さらにDXには欠かすことができないローコード開発を得意としています。BSCの優秀なエンジニアと、BBSの得意領域である経営会計コンサルティングを組み合わせ、お客様により付加価値の高い「経営会計」を提供します。

会社紹介

株式会社BSC

所在地	大阪府大阪市西区江戸堀2丁目6番33号	**資本金**	50百万円
代表者名	代表取締役社長　近藤 徹	**従業員数**	128名（2022年4月現在）
事業内容	システム設計・開発、コンサルティング	**設立年月日**	1989年12月16日

Together for Value
BBS 株式会社ビジネスブレイン太田昭和

発行：BBS GROUP NEWS 編集室　〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-1 日比谷フォートタワー 15F
TEL：03-3507-1300　FAX：03-3507-1301　Webサイト：https://www.bbs.co.jp/
本誌に対するご意見・ご要望を編集室までお寄せください。